

整理番号	47-9	事務事業名	姉妹都市交流事業 (中学生スポーツ交流)		作成部署	生涯学習部体育課	電話	内線890
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	山内平一郎	課長職名	松尾定治	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H10	根拠法令等						
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	東広島市との交流事業が多岐にわたり実施されているなか、次代を担い、次世代へと交流をつなぐことのできる中学生を対象に、スポーツ交流を実施し、相互の友好・親睦を深める。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	いきいきとした交流と連携のまち	(第3章)
	節	広域交流	(第2節)
	施策	都市間交流	(第3施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	市内中学生	
	意図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	スポーツを通じて、東広島市との交流を行い、文化の違い、住民性の違い等を感じてもらい、相互の理解と友好・親睦を深める。	
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	H13年度 第4回目 会場 東広島市 種目 バスケットボール(女子)
			H14年度 第5回目 会場 北広島市 種目 バスケットボール(女子)
			H15年度 第6回目 会場 東広島市 種目 バレーボール(女子)
			H15年度より交付金事業として実施。
			H16年度 第7回目 会場 北広島市 種目 ソフトテニス(女子)
		17年度	H17年度 第8回目 会場 東広島市 種目 バスケットボール(男子)

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	1,328	391	1,313	391
	合計	1,328	391	1,313	391
人件費 (概算)	人数(年間)	0.01	0.02	0.01	0.02
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	90	180	90	180
総事業費 +		1,418	571	1,403	571

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	北広島市参加者(引率含む)	16	24	14	24
	東広島市参加者(引率含む)	36	16	36	16
	合計	52	40	50	40
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	北広島市参加者(引率含む)	16	24	14	24
	東広島市参加者(引率含む)	36	16	36	16
	合計	52	40	50	40
	第1回からの交流者数の累計	276	316	366	406
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	参加者1人当たり費用	88,625円	14,275円	100,214円	14,275円
	(総事業費/事業参加者総数)	(旅費含む)		(旅費含む)	
	15及び17年度は、北広島市の参加者で算出				

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	行政をはじめとして、多岐にわたり姉妹都市交流事業は展開されているが、スポーツを主題におく交流事業は、ほとんどないため、部活動の生徒にとっては貴重な体験の場となっている。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	中学生のスポーツ交流は、中学生にとって貴重な経験の場を提供するための事業なので、妥当と考える。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	次代を担う中学生を対象とするこの事業は、参加した本人にとって、非常に有意義な経験となるものであるから、妥当と考える。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	中学生が対象であるため、生徒の状況を最も把握している広教研への補助は妥当と考える。(H15より、中体連への交付事業として実施。H17からは交流事業委員会へ移行)	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	参加した生徒のその後の学校生活の状況は、リーダー的存在として、積極的になった者が多いという報告が毎年あることから、概ね成果は上がっている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	広教研との連携により、実施できる事業なので、概ね効率的と考える。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	この事業を継続することにより、次代を担う中学生にとって、貴重な体験の場を提供できるので、現状のまま継続していく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり

付 表

補助金・交付金 交付先団体等の状況説明書

整理番号	47-9
------	------

【交付先団体等の概要】

補助金・交付金名	姉妹都市交流事業(中学生スポーツ交流)		
交付先の名称及び代表者名	北広島市中学校体育連盟 会長 本多 総夫	設立年	昭和54年
構成員(団体)数	市内中学6校 (17年3月末現在)		
交付先団体等の活動目的	市内中学校生徒の体位・体力の向上、スポーツに対する意識の向上を目指し、スポーツを行うことによって心身の健全な育成を図る。		
交付先団体等の活動内容	1. 生徒の体位体力の向上方針と具体的計画の推進 2. 各種スポーツ大会の計画と推進		
事務局の状況(16年度)	補助団体にある	市役所にある	
補助金等の充当状況(16年度)	運営費のみに充当	事業費のみに充当	運営費・事業費の双方に充当

【交付先団体等の決算・予算の状況】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	
収 入	本市補助・交付金の額(A)	1,328	379	1,198	17年度より、北広島市教育研究会交流事業委員会へ変更となる
	広教研交付金	2,382	3,082	148	
	会費		19		
	諸収入				
	その他(研修負担金)				
	繰越金				
	収入合計(B)	3,710	3,480	1,346	
支 出	事務局費	124	140	73	
	大会運営費	353	413	50	
	輸送助成費	1,471	2,123		
	東広島市交流事業	1,348	379	1,218	
	負担金	414	425		
	予備費			5	
	支出合計(C)	3,710	3,480	1,346	
繰越金	収入(B) - 支出(C)	0	0	0	
全体支出に対する本市補助・交付金の割合(A)÷(C)		36 %	11 %	89 %	
補助・交付金の対象経費(項目)		東広島市交流事業	東広島市交流事業	東広島市交流事業	
補助・交付金の対象経費(金額)(D)		1,348	379	1,218	
対象経費に対する補助・交付金の割合(A)÷(D)		99 %	100 %	98 %	
補助・交付金の算出根拠		定額補助 清算			